

「最期の迎え方 家族と話を」

永源寺診療所の花戸医師 大阪で講演

介護の専門家や薬剤師、ご近所の住民と関係した在宅医療を進め、全国から注目される東近江市の永源寺診療所の花戸貴司医師(45)が11日、大阪市西区で講演会を開いた。テーマは「看取り 幸せな人生の最終章とは」。「どう最期を迎え



講演する永源寺診療所の花戸貴司医師 大阪市西区

たいか。死はタブーとされがちだが、普段から考え、家族と話し合うことが大切だ」と訴えた。

講演会は朝日新聞厚生文化事業団主催で約150人が集まった。花戸さんは2000年に高齢化の進む永源寺地域の診療所に赴任。現在は約80人の患者を往診し、近年は年に地域で亡くなる人の半数近い25〜32人を在宅で看取っている。

花戸さんは月1回、在宅の患者一人一人につき、多くの職種の関係者らが集まり、様々な情報を交換している取り組みを説明。「在

宅医療は医師1人ではできない。顔の見える関係をつくり、関係者がつなげれば、独居の認知症の患者さんでも支えることができる」と話した。

また在宅医療について、子どもたちに高齢者が生きた日々を伝える貴重な機会だと指摘。「次の世代が30年後、60年後でも、安心して生活できると思えるような地域づくりを進めていきたい」と語った。

輝け★レイクス

逆転勝ちで 琉球に雪辱

プロバスケットbjリーグの滋賀レイクスターズは1日、大津行きのバス